

史跡宇陀松山城跡 散策マップ



1 松山西口関門 (通称黒門)
城下町への出入口として建築された門で、昭和6年(1931)に国の史跡に指定されました。西口関門から春日神社に続く道は、町の大手筋に当たります。



2 春日門跡
春日門は大手筋の正面に位置し、町人地と一段高い武家屋敷地を分ける虎口であり、城郭と武家地の大手門に当たります。



3 抜け穴伝説 in 春日神社
春日神社境内の手水舎裏の石垣に空いた穴には、「宇陀松山城跡の天守から続く穴で、城主が有事の際、利用する抜け穴である」という伝説が残っています。



4 南西虎口部 横堀
登城路の終着点(城の入り口)にある大きな横堀(人工的に造った空壕)です。現在は道(土橋)となっていますが、本来は木橋がかかっていたと考えられます。



5 南西虎口部 雀門
登城路の終着点付近にあり、文禄3年(1594)の「阿紀山城図」には「雀門」の記載があります。門を入口とし虎口が形成されています。



6 南西虎口部 通路北側の石垣
南西虎口の北側を形成する石垣です。この石垣は横に目地が通っており、石の大きさも意図的にそろえられています。石材の多くは大宇陀本郷で産出したと考えられます。



7 南西虎口部 門跡2
北の郭と東の郭への分かれ道に当たります。周辺の発掘調査で酢漿草文(かたばみもん)の鬼瓦(家紋瓦)が出土したことから、多賀秀種(たがひでたね)が在城していた段階には形成されていたと考えられます。



8 南西虎口部 門跡3
石製の唐居敷(門柱や門扉の軸を支える厚板)を検出しました。そのため、ここに門があることが分かりました。



至 春日神社
至 まちかどラボ

現在入れないスポット A~D



A 隅櫓の破城痕跡
発掘調査で確認された破城の痕跡を示す遺構です。石垣が崩された当時の状態が残っています。



B 南虎口部階段
発掘調査で確認された本丸と下城を連絡する通路遺構です。通路が折れ曲がっており、防御を考えた構造となっています。



C 本丸南東虎口部
本丸に入るための虎口の1つです。本丸から一段降りたところに平坦面を作り、虎口としています。また、番所(守備や監視を行う施設)と考えられる礎石建物が確認されました。



D 大門跡
文禄3年(1594)の「阿紀山城図」には「大門」の記載があります。そのため、かつては大手道であったと考えられます。発掘調査で門の礎石と、大量の投棄された瓦が確認されました。



9 本丸から見る大峰山脈
本丸南側から大峰山脈を一望することができます。奈良県でも特に優れた景観であることから奈良県景観資産「大峰山脈」が眺望できる宇陀松山城跡に登録されています。



10 本丸御殿
瓦の出土量が少ないことから、桧皮(ひわだ)か柿(こけら)葺きの建物であったと考えられます。御殿は「遠侍」「家臣留」「広間」「書院」「台所」の5棟から成っていたと考えられます。



11 天守に至る虎口
天守と本丸を連絡する二つの虎口です。特に北側は本丸御殿と天守「奥向御殿」を繋ぐ付櫓があったと考えられます。



12 天守
文禄3年(1594)の「阿紀山城図」には「天守」の記載があります。鬼瓦や鯉瓦が複数出土し、当時天守があったことを裏付けています。



13 天守郭(てんしゅぐわ)の土居・横堀
天守郭を形成する土居とそれを取り囲む横堀です。土居や堀などの現在に残る地形は全て人力によって土を盛りあげ、削り切り造られています。



14 天守から見る大和富士
天守北側からは榛原の市街地と「大和富士」とも呼ばれる額井岳などの山並みを一望できます。宇陀松山城跡は宇陀郡支配の拠点であるとともに、宇陀から伊勢を通る街道を押さえる役割を担っていた城と考えられています。



※大門復元イメージ(D)



【まちかどラボ】

松山地区内と史跡宇陀松山城跡への入口に建つ観光案内の拠点として、令和3年にオープンしました。宇陀松山城跡に関するご案内やパンフレットの配布などを行っておりますので、ぜひお立ち寄りください。

開館時間：9時～17時

休館日：年末年始（12月29日～翌年1月4日）

住所：奈良県宇陀市大宇陀出新

1817・1818 合併2

電話：0745-88-9800

【松山城 年表】

戦国時代

阿紀神社の神職であった秋山氏が領主となり、古城山に城を築く。その麓に城下集落を造る。

1585 (天正13年) 伊藤義之（いとうよしゆき）宇陀に入部。

1586 (天正14年) 加藤光泰（かとうみつやす）宇陀に入部。

1588 (天正16年) 羽田正親（はねだまさちか）宇陀に入部。

1592 (文禄元年) 多賀秀種（たがひでたね）宇陀に入部。
酢漿草文（かたばもしゅん）の鬼瓦が出土していることから、宇陀松山城跡の「作事」を担ったと考えられる。

1600 (慶長5年) 関ヶ原合戦後、福島高晴（ふくしまたかはる）宇陀に入部。「松山城」と改める。

1615 (慶長20年) 福島氏が改易。その後宇陀松山城が小堀遠州（こぼりえんしゅう）・中坊秀政（なかのぼうひでまさ）によって破却（破城）される。

【宇陀・松山地区までのアクセス】

電車・バス

近鉄大阪線榛原駅下車

奈良交通バス「大宇陀」行き約15分

自動車

名阪国道針インターから約30分

国道369号を宇陀市方面→国道370号

→国道166号

南阪奈道路 葛城インターから約40分

→国道165号→国道166号

〈お問い合わせ〉

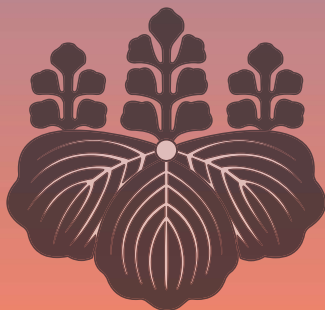
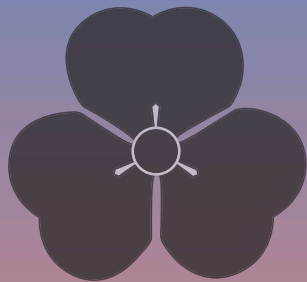
宇陀松山まちかどラボ

TEL:0745-88-9800

宇陀市教育委員会事務局文化財課

TEL:0745-82-3976

国史跡 宇陀松山城跡



【宇陀松山城跡 概要】

史跡宇陀松山城跡は、南北朝から戦国時代にかけて伊勢国司北畠氏から「和州宇陀三人衆」と呼ばれた秋山氏が築いた城である。秋山氏退去後の豊臣政権のもとでは豊臣家配下の大名の居城として改修・整備が行われ、大和郡山城・高取城と並ぶ大和支配の拠点となった。しかし、元和元年（1615）に城主である福島高晴が改易され、城は破城される。平成7年から行われた発掘調査の結果大規模な石垣や本丸御殿跡などが見つかり、安土・桃山時代から江戸時代初期にかけての壮大な城郭の姿が明らかとなった。中近世の山城の在り方と破城の様子を伝える城であることから、平成18年7月に国史跡の指定を受けた。

奈良県宇陀市